

Company Information

会社情報



上場市場 株式の売買単位 設立 本社 U R L 資 本 金 発行済株式数 拠 点	東京証券取引所 市場第一部 100株 1949年(昭和24年)11月 〒104-0031 東京都中央区京橋3-1-1(東京スクエアガーデン18F) TEL(03)5202-4011 FAX(03)5202-4054 https://www.sunwa.co.jp/ 37億2,700万円 16,044,000株 (国内) 東京(本社)、北関東(さいたま市)、東京西(八王子市)、横浜、名古屋、京都、大阪、福岡 東北(仙台市)、沼津、長岡、甲府、長野、浜松、三河(刈谷市)、三重(四日市市)、 北陸(富山市)、姫路、四国(新居浜市)、広島、熊本、大分、長崎 (サービスセンター)東京、名古屋、九州(北九州市) (海外) 上海、大連、広州、蘇州、杭州、瀋陽、天津、廈門、上海メカトロセンター、香港、 香港物流センター、深圳、台北、台中、台南、シンガポール、クアラルンプール、ペナン、 バンコク、ハノイ、ホーチミン、ジャカルタ、マニラ、シカゴ、グリーンビル(サウスカロライナ)、 ロサンゼルス、ケレタロ、フランクフルト、リュブリャナ 従業員数 連結対象子会社
--	---

連結1,043人(2021年3月31日現在)
 国内2社(サンワトリニティ、サンワロジスティック)
 海外13社(シンガポール、香港、深圳、台湾、マレーシア、上海、タイ、インドネシア、フィリピン、
 ベトナム、ヨーロッパ(ドイツ)、アメリカ、メキシコ)

事業内容

当社は1949年に創業以来、当時の産業設備復興の時代の要請を受け産業用設備機械、電動機と制御機器などの販売と付帯工事の請負を主な事業としてまいりました。以後産業構造の変遷につれて、生産設備の自動化(F Aシステム)関連の電機製品と電子部品、コンピュータシステムなどビジネスの領域を広げ、情報化社会の進展により産業用設備機器、装置、電子部品の販売など内容が変遷してまいりました。その間「顧客第一、エンジニアリングサービス、最新技術情報の提供」など技術商社として一貫して顧客の発展に奉仕してまいりました。最近話題の交通関係の先進運転支援システム(A D A S)のカメラや各種ロボット、スマートフォン製造の工作機械、銀行の現金自動預け払い機(ATM)、街頭や職場に見られる自動販売機、アミューズメント機器、装置など開発の段階から参画して制御機器や電子部品など、電装品を提供し顧客の価値の創造に貢献してまいりました。近年顧客の要望により海外のEMSとの提携も加速しています。一般産業用のロボットシステム、医療、介護用ロボットシステム、バイオテクノロジー分野へのロボットなどの提供、新幹線をはじめ各鉄道車両の電装品や交通管制システムなどインフラ市場への部品や機器の提供をしております。また食品、薬品業界などの製造装置の自動化等、最近ではIoT、Industry 4.0をはじめ様々な分野にも積極的に取り組んでおります。

当社は独立系の技術商社であり、**電機・電子・機械**の三部門を軸に特色のあるサービスを多方面に提供しております。

電機部門では、ACサーボモータ、リニアモータなど各種モータ、マシンコントローラ、マシンビジョンシステム等のF A機器及びシステム、パワーコンディショナ、動力電源機器と電気工事等、産業施設全般にわたる電機関連の営業を行っております。

電子部門では、各種電源、コネクタ、センサ、LED等の光学系部品、各種電子部品、OA用各種機器、F Aシステム、通信・情報機器などそれぞれの業界では、トップクラスの専門メーカーの製品の販売と基板等の組み立て加工製品も販売しております。

機械部門では、産業用ロボット、クリーンロボット、半導体・液晶関連製造設備、物流搬送装置及び設備、基板実装装置、各種検査装置、環境関連機器・装置、風水力等流体機器、介護・医療機器などの販売とメンテナンス業務の営業を行い、顧客の生産性の向上、省エネなど社会のニーズに対応し貢献しております。



ACサーボモータ

電機部門



画像処理システム



ダイオード

電子部門



人協働ロボット モバイルロボット

機械部門

特徴と
強み

当社の特徴

- 1) 電機・電子・機械の基幹製品を軸にして、生産工場の設備の近代化から最先端のICT分野に至るまで技術商社として顧客の製品や装置の開発段階から、試作品の製作に至るまでサービスを提供致します。
- 2) 海外拠点を活用して顧客の製品を当社のネットワークで販売する等、相互依存、相互信頼を高めること等にも努力しております。
- 3) 当社は自前のエンジニアリング部門と、品質管理部門を有し顧客に安心と安全の提供を続けております。
- 4) 社是に則り好・不況に関係なく計画的に人材を採用し育成に努め、また株主様には創業以来安定配当を継続しております。

【主要得意先】

安川電機グループ、デンソーグループ、三菱電機グループ、パナソニックグループ、SCREENグループ、富士電機グループ、AGCグループ、オムロングループ、キヤノングループ、島精機製作所グループ、日立グループ、FUJIGROUP、ニコングループ、ダイヘングループ、ヤマハ発動機グループ、東芝グループ、セガサミーグループ、コナミグループ、ブリヂストングループ、TOTOグループ、フジテックグループ、アマダグループ、グローリーグループ、富士フィルムグループ、日清食品グループ、ダイフクグループ、SMCグループ、ミウラグループ、オークマグループ、京三製作所グループ

【主要仕入先】

(電機・電子部門)

安川電機グループ、オムロングループ、ミネベアミツミ(株)、TDKラムダ(株)、ケル(株)、スタンレー電気(株)、ダイヘングループ、フェニックス・コンタクト(株)、リコーグループ、(株)日本アレフ、フジクラグループ、シーメンス(株)、(株)オリジン、(株)コンテック、ニチコン(株)、東芝インフラシステムズ(株)、(株)明電舎、

(機械部門)

三機工業(株)、不二ライトメタル(株)、(株)デンソーウェーブ、日機装(株)、海外機械メーカー等

NEXT1800

方針に対する重点施策

コアビジネスの強化でお客様のものづくりに貢献する

- ▶ コアビジネス（代理店事業、エンジニアリング事業、グローバルSCMソリューション事業）の強化
- ▶ ソリューション提案強化のための取引先との協業を推進する



上海サンワテクノス
(廈門事務所)
2021年5月開設

グローバル事業を拡大し市場の需要をサポートする

- ▶ 海外現地社員の登用と組織力の強化
- ▶ 新規拠点の開設検討



サンワテクノスマレーシア
(ペナン事務所)
2021年1月開設

新事業領域へ挑戦し持続的成長を加速する

- ▶ 新事業創出への投資強化
- ▶ イントラプレナー（社内起業家）政策導入による経営人材の育成
- ▶ SCMの整流化による新しい価値の創出



サンワテクノスベトナム
(ホーチミン事務所)
2019年8月開設

持続可能な社会の実現への取り組み

- ▶ 社員エンゲージメントを向上し働きがいある企業風土へ
- ▶ ICT利活用で「生産性を高める」働き方改革
- ▶ SDGsへの取り組み
- ▶ 企業の社会的責任を果たす（CSR・コンプライアンスの推進）

積極的な海外ビジネスの展開

当社グループは、1995年にシンガポールに海外拠点を開設以来既に12カ国に28拠点を開設致しました。

いずれも顧客の要望に沿って出店していますので投資期間は短期で済み、早期の収益に貢献しております。顧客の海外進出に対応して国内と同様のサービスを提供する事をセールスポイントにし、併せて現地企業の開拓を進めて海外事業の拡大発展を目指しております。

現在はサンワグローバルネットワークの構築を進め、顧客の購買代行業務（グローバルSCMソリューション）も請け負うなど在庫から流通の合理化等により顧客のトータルコストの低減にも貢献しております。また海外の優れた製品を開発し国内外の顧客に提供するビジネスも展開しております。

沿革

- 1949年 11月 会社設立（旧社名 山田工業㈱）
- 1958年 4月 福岡支店開設
- 1960年 8月 大阪支店開設
- 1962年 10月 名古屋支店開設
- 1972年 11月 京都支店開設
- 1982年 5月 日本証券業協会に株式を店頭登録
- 1984年 11月 名古屋サービスセンタ - 開設
- 1993年 4月 社名を山田工業㈱からサンワテクノス㈱へ変更
- 1995年 5月 サンワテクノスシンガポール設立
- 1997年 12月 サンワテクノスホンコン設立
- 1998年 4月 サンワテクノスヨーロッパ設立
7月 サンワテクノスアメリカ設立
- 2000年 11月 サンワテクノス台湾設立
- 2001年 10月 サンワテクノスマレーシア設立
- 2003年 12月 上海サンワテクノス設立
- 2004年 4月 東京証券取引所市場第二部に株式を上場
2月 ISO14001をサンワテクノス㈱全事業所で取得
3月 東京サービスセンター開設
- 2005年 3月 東京証券取引所市場第一部に指定
10月 九州サービスセンター（北九州市）開設
- 2006年 10月 サンワテクノスタイランド設立
- 2007年 12月 上海メカトロセンター開設
- 2009年 1月 サンワテクノス深圳設立
2月 ISO9001をサンワテクノス㈱全事業所で取得
10月 東京西支店開設
- 2013年 10月 香港物流センター開設
- 2014年 3月 サンワテクノス台湾 台中事務所開設
10月 サンワテクノスインドネシア設立
- 2015年 9月 サンワテクノスフィリピン設立
サンワテクノスメキシコ設立
- 2016年 1月 サンワテクノスアメリカ ロサンゼルス事務所開設
5月 サンワテクノスベトナム設立
- 2017年 4月 名古屋支社開設（支店より昇格）
横浜支店開設（営業所より昇格）
- 2018年 4月 関東支社開設
関西支社開設
- 2019年 10月 サンワテクノスヨーロッパ リュブリャナ事務所を開設
4月 北関東支店開設（営業所より昇格）
三河支店開設（営業所より昇格）
7月 四国営業所開設
8月 サンワテクノスベトナム ホーチミン事務所開設
- 2020年 12月 長岡営業所開設
- 2021年 1月 サンワテクノスマレーシア ペナン事務所開設
2月 甲府営業所開設
5月 上海サンワテクノス 廈門事務所開設



本社

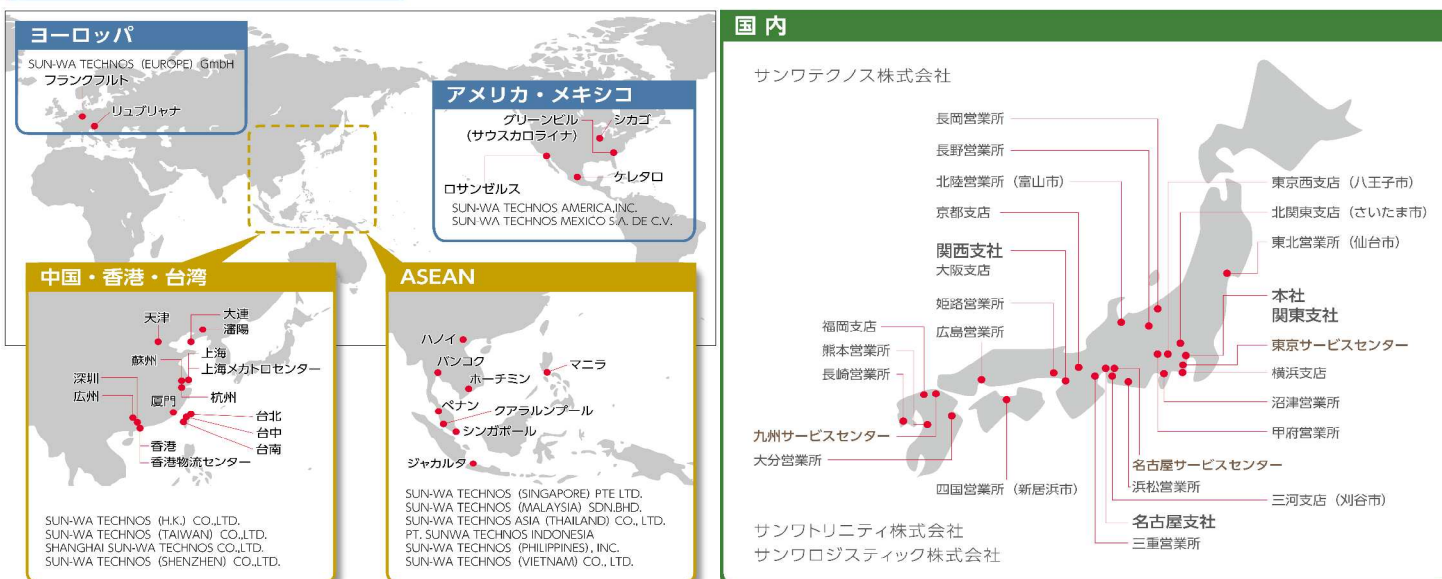


名古屋支社



名古屋サービスセンター

サンワグローバルネットワーク



業績

連結

決算期（西暦）	売上高 （百万円）	営業利益 （百万円）	経常利益 （百万円）	当期純利益 （百万円）	1株当期純利益 （円）	1株配当 （円）
2020年3月	137,943	1,846	2,144	1,341	84.11	34.00
2021年3月	134,769	2,152	2,567	1,786	113.23	34.00
2022年3月（予）	135,800	3,430	3,500	2,250	142.62	34.00

（注）2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用するため、上記の連結業績予想は当該基準（有償支給取引に係る売上高の純額表示等）を適用した後の金額となっております。

トップが
語る

サンワテクノ株式会社 代表取締役社長

た なか ひろ ゆき
田 中 裕 之

Tanaka Hiroyuki



第10次中期経営計画「NEXT 1800」について

取り組みについて

当社グループでは、2021年度に1,800億円、さらには2025年度に2,500億円の連結売上高へチャレンジできる体制構築に向けて、2019年度から2021年度までの3ヶ年を対象とする第10次中期経営計画「NEXT 1800」を策定し、最終年度となる今年度も、業績の拡大と収益性の向上に努めてまいります。

第10次中期経営計画（2019年度～2021年度）

NEXT 1800

サンワビジョン 2025

明るい未来を創る サンワテクノグループ



方針

- コアビジネスの強化でお客様のものづくりに貢献する
- グローバル事業を拡大し市場の需要をサポートする
- 新事業領域へ挑戦し持続的成長を加速する
- 持続可能な社会の実現への取り組み

実績、経営目標数値 及び 業績予想

【連結】	(単位:百万円)			
	2019年度実績	2020年度実績	2021年度 経営目標	2021年度 業績予想
売上高	137,943	134,769	180,000	135,800
営業利益	1,846	2,152	4,800	3,430
営業利益率	1.3%	1.6%	2.7%	2.5%
経常利益	2,144	2,567	5,000	3,500
経常利益率	1.6%	1.9%	2.8%	2.6%

投資家の皆様へ

当社は、安定した配当を継続するとともに、業績の進展状況を勘案しながら増配や株式分割等を実施することにより、適正な利益還元を行ってゆくことを基本方針としております。

内部留保につきましては、中長期的な視点に立ち、企業体質・企業競争力の更なる強化や急激に変動する事業環境に対し柔軟に対応するため充実強化に努める方針でございます。

株主の皆様、投資家の皆様には、今後もより一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。